

ファッションによるアイデンティティ確立と 権利保障

—自己表現としての若者の「ファッション行動」と「高揚感」に着目して—

氏名 阿部弓佳
学籍番号 HS21-1082B

目次

序章

第 1 章 身分とファッション及び権利保障

第 2 章 ファッションによるアイデンティティの確立と権利保障

第 3 章 ファッションによる若者のアイデンティティの確立と「高揚感」及び権利保障

終章

主な引用文献

1. 序章

筆者がこのテーマを選定した理由は、筆者にとってファッションが、自己表現、自己肯定感、アイデンティティの確立などに大きく関わり、人生を明るくしてくれたからである。現代では自らの意志で服装の選択をすることができる自由な社会である。ファッションで自分らしさを表現できることでアイデンティティの確立に繋がり、それは、権利保障がなされて自由の権利の獲得が実現したことで、権利の行使が可能になったからなのではないだろうか。本論文では、ファッションとアイデンティティの確立の関係性をファッション行動の側面から明らかにし、若者の発達、アイデンティティ

の確立の過程において、どのように権利保障と結びついているのかを検討することを目的としている。

2. 身分とファッション及び権利保障

第 1 章ではファッションとファッション行動の定義を行い、ファッションの変遷から社会的位置づけを整理し、ファッションと権利保障の関連について言及した。ファッションの変遷を見るとファッションの役割と社会的位置づけが変化しており、自由なファッションの重要性がより高いものとなっていることが確認できた。現代におけるファッションはアイデンティティをも反映するものとなったことが明らかとなった。

3. ファッションによるアイデンティティの確立と権利保障

第 2 章ではファッション行動が権利保障の上で成り立っていることが確認できた。基本的人権、自己決定権や表現の自由、生存権は日本国憲法や子どもの権利条約などにも規定され、人が平等に持つ権利として保障されている。「他でもない私」として生きる権利が保障されているからこそ、自由で豊かな、自分らしい「ファッション行動」を

行うことができる。また、青年期にアイデンティティの確立が発達(エリクソン 1959 : 134-139)し、その発達過程におけるアイデンティティの確立にファッションが重要な役割を果たしていることも先行研究から明らかとなった。岡林誠士(2017)は、「ファッション行動」はアイデンティティの形成に大きな役割を果たすということ、アイデンティティ獲得の過程において「ファッション行動」が影響することを明らかにしたが、アイデンティティの確立の有無と「ファッション行動」との関係は結びつけていなかった(岡林 2017 : 13-21)。

4. ファッションによる若者のアイデンティティの確立と「高揚感」及び権利保障

第3章では、アイデンティティの形成度から「ファッション行動」の活動度と「高揚感」の関係性を考察した高田葉子(2013)と新井葉子(2015)の先行研究を確認し、権利保障の視点からファッションとアイデンティティの確立について検討した。前者の調査データから、アイデンティティの形成度が低い学生もファッションに対して「高揚感」を大きく感じていることが分かった。

「ファッション行動」を自由に行う権利を一人ひとりが平等に持っており、自由な「ファッション行動」から「高揚感」が生まれることは、権利の象徴だと考える。後者の調査データから、アイデンティティの形成度が低い学生はファッションで体型やサイズ感を考慮しながらも、「自分らしさ」を重視していることが分かった。「自分らしさ」を表現するファッションの在り方に体型は関係なく、その選択の自由は、権利保障の上で平等で自由の権利として保障されていることを証明している。

5. 終章

若者が発達過程において衣服を好きなように着ることは、「他でもない私」が行う自由な「ファッション行動」であり、「ファッション行動」によって自分らしく自己表現を行うことは「高揚感」につながり、アイデンティティの確立を助長しているということである。自分らしく自由に生きていくためには、服装も「自分らしさ」を重視して自由に選ぶことが必要であり、自分らしい表現を行うことは人間の尊厳であること、自分は「他でもない私」であるというアイデンティティの確立の過程における、自由な選択をする権利の保障と必須の関係があることが明らかとなった。

本論文の限界は、貧困家庭で衣服を購入することができない若者を含めていない点、職業や校則などによって服装の規定が設けられ制限されている場合を含めていない点である。

【主な引用文献】

- ・新井葉子, 2015, 「女子大学生のアイデンティティとファッション行動・高揚感の関係性」 戸板女子短期大学研究年報(58)3-7
- ・Erikson, E. H, 1959, 「アイデンティティとライフサイクル」 134-139
- ・岡林誠士(2017) 「ファッションについてのアイデンティティと被服行動の関連 I」 ファッションビジネス学会論文誌(22)東京ファッションビジネス学会 p13-22
- ・高田葉子, 2013, 「アイデンティティとファッションの関係性についての考察」 戸板女子短期大学研究年報(56)3-13